

## メイテックグループ：株主・投資家等との対話に関する方針

### 1. 基本姿勢

目指すべき姿で『持続的な価値向上に基づく「健全な利益」を創出し、中長期的に株主還元を最大化します』と明記した『株主価値』の向上を目指し、株主・投資家等からメイテックグループに対する理解を得るための不断の努力を行い、株主総会やIR活動等を通じて株主・投資家等と建設的な対話を行う。

対話に際しては、株主・投資家等から適切な評価を得るためにも、代表取締役社長・グループCEOをはじめとする経営陣幹部が主体となって適時適切にお応えする。個々の対話(面談)の申し込みに対しては、面談目的や内容の重要性などを勘案し合理的な範囲で経営陣幹部が面談に臨む。

### 2. 情報の開示と説明に関する取り組み

別にディスクロージャー・ポリシーを定め、情報開示の公平性・正確性・適時性・継続性を確保する。

建設的な対話に必要なメイテックグループに対する理解を促進するため、開示資料への分かりやすい記載と明確な説明に努める。

経営計画や経営戦略の開示と説明は、資本政策に関する方針のほか、収益計画と共に重要指標の目標も提示する。また、競争優位に関する秘匿性を考慮しつつ施策の提示に努める。

非財務情報の重要指標：月末エンジニア社員数および毎月の稼働率、ならびに社員に向けた代表取締役社長・グループCEOによる月例メッセージは、継続して、毎月、当社ウェブサイトへ掲載する。

開示資料は英文版を作成して当社ウェブサイトへの掲載などに努める。

### 3. 統括責任者等の指定、社内組織の有機的な連携のための方策

株主・投資家等の関心や懸念等を理解した上で適切な対応が採れるよう、建設的な対話を実現するための体制を以下の通りとする。

統括責任者： IR担当取締役

担当部署： 経営管理部

代表取締役社長・グループCEOをはじめとする経営陣幹部による対話を補助する上記担当部署は、営業・採用・キャリアサポートを所管する部門や広報・経理などの部署と緊密に連携して、情報の正確性を確保する。

決算に関する情報や同時に開示する情報は、四半期決算毎に、経営陣幹部と担当部署等で構成する会議で正確性や適時性などを点検する。

#### 4. 個別面談以外の対話の手段の充実にに関する取り組み

個別面談以外の対話の手段として、年2回、決算説明会を開催し、代表取締役社長・グループCEOが直接説明する。

証券会社主催のカンファレンスやスモールミーティング等へ可能な範囲で代表取締役社長・グループCEOが参加し、直接説明する機会の充実に努める。

その他、事業報告書やアニュアルレポートの発行などにより、メイテックグループに対する理解促進のための情報開示の充実に努める。

#### 5. 社内への適切かつ効果的なフィードバックのための方策

IR活動で株主・投資家等から受けた質問の内容や意見・懸念・要望等は、継続して、毎月、定例取締役会へ報告する。

#### 6. インサイダー情報等の管理に関する方策

社内規定に沿って重要な当社グループに関する業務および経営上の情報を適切に管理し、インサイダー取引の未然防止に努めると共にディスクロージャー・ポリシーで沈黙期間を設定し、決算に関する情報の漏えい防止に努める。

なお、万一、社外の一部の方だけに、誤ってインサイダー情報や決算情報であって有価証券の価額に重要な影響を与える未公表の情報を伝えてしまった場合は、メイテックグループ:ディスクロージャー・ポリシー「3. 情報開示の方法」により、適時適切に当該情報を公表する。

2015年11月5日制定

2018年7月31日改定

2020年4月1日改定